

わがまち再発見!!

シリーズ 文化財の紹介

対馬市教育委員会 文化財課

0920(54)2341

刀伊の入寇

「刀伊」とは何を指すのでしょうか？実は10～13世紀にかけて朝鮮半島を支配していた高麗(918～1392年)の北に居住していた女真族のことを言います。女真族は後に金(1115～1234年)を建国しています。

今からおおよそ1000年前、寛仁3年(1019)3月27日、対



銀山神社

樫根地区の入口に位置します。最奥地には法清寺が、東の山に銀鋳跡があります。

馬は約50隻の船と3000人の賊に襲撃されました。対馬各地で殺人、略奪を繰り返され、多大な被害を受けました。この時、佐須にあつた銀鋳も焼失し、18人が殺害され、116人の人が連れ去られました。時の右大臣藤原実資の日記「小右記」に「上県郡では9人殺害され、男・女・子132人が連れ去られ、下県郡では107人殺害され、男・女・子98人連れ去られ、捕食された牛馬199頭(牛117頭、馬82頭)」と記されています。女真賊は人と物を奪うことが目的で対馬を襲った後、吉岐、筑前(博多周辺)を襲撃しています。

この時、国司の対馬守遠晴は島を脱出し、大宰府に外敵の襲来を知らせています。吉岐では吉岐守藤原理忠が軍を率いて戦い討ち死にしています。吉岐は148人が殺害され、239人が連れ去られ、島に残ったのは僅か35人だったそうです。4月8日から12日にかけて、今この博多周辺を荒らし、大宰府権師藤原隆家率いる武士団と戦い、撃退され逃げ帰っています。帰途、高麗国の沿岸も襲いましたが、高麗軍に撃退されています。この時、日本から連れ去られた二百数十人が保護され、日本に送り返されています。

対馬の被害地で確かなのは佐須の銀鋳だけで、当時の記録は残っていないため他の被害地などは分かりません。

刀伊の入寇から255年後に元(文永の役)が、400年後に李氏朝鮮国(応永の外寇)に攻め込まれ対馬は大きな損害を受けています。

「長岑諸近」(生没年不詳)

対馬判官代だった長岑諸近も、自分の母、妻、妹、伯母とともに刀伊に連れ去られました。途中一人で脱出しました。諸近は、国禁を破り高麗に密出国し、賊の正

体と家族など連れ去られた人達、消息を調べました。その結果、賊は女真族と判明しました。高麗軍は日本から引き返してきた女真族を待ち伏せし、迎え撃ち全滅させました。高麗国は捕らわれていた日本人を救助し帰国させましたが、諸近の家族は伯母が生き残っていただけでした。事件の詳細について、諸近は救助された女子からの話を聞いた後、大宰府へ報告しました。諸近の行動により刀伊の賊の正体と捕虜の消息を知ることが出来ましたが、渡海の禁を破って密出国したため禁固刑に処せられています。



佐須川(金田小付近)
当時はこの辺りまで海だったと考えられています。